

御所ヶ丘中学校区保幼小中高一貫教育の実践

1 はじめに

御所ヶ丘中学校区ではテーマを「9年間の連続した学びを通して、未来に向かって生きる児童生徒の育成」と設定し、4小中学校の協力体制のもと、様々な実践を積み重ねてきた。御所ヶ丘中学校区の特色は、インクルーシブ教育システムの構築にある。すべての児童生徒に対して一人一人の教育的ニーズにあった支援を全教育活動の中で行っていくというものである。人とのかかわり合いを大切にして、個性や成長を認め合い、支え合う支持的風土の醸成という視点に立って、一貫教育を進めている。

2 実践

(1) インクルーシブ教育システム構築事業(スクールクラスター)

御所ヶ丘中学校区では、昨年度から標記の事業を小中学校が連携して取り組んできた。昨年度は、小中学校の特別支援教育コーディネーターが、合理的配慮協力員のアドバイスを受けながら事業の計画や推進、ユニバーサルデザイン(UD)を取り入れた授業の展開や工夫、合理的配慮の効果や進捗状況等を話し合った。

今年度は、昨年度の反省を踏まえて各校2回、計8回の授業を参観し、ケース会議を開いて支援の仕方や効果の程度を話し合った。

① UDを取り入れた授業

授業の見通しが分かるような掲示をしたり電子黒板などのICTを活用したりすると、学習への参加意欲が高まることが明らかになった。また、具体物の掲示やワークシートの活用で理解が深まってくることも確認できた。



② 合理的配慮

児童・生徒の座席の配慮や活動的な学習を取り入れることで、授業への参加を促したり理解を深めるのに効果があることが検証された。

今年度は小中両方の授業をそれぞれ参観することで、児童・生徒の実態を把握し理解することができたのがよかった。また、みんなで取り組むことで事業を推進することに対して一種の安心感を得ることができた。



③ 拡大推進委員会

4回ほど市内各学校の特別支援教育コーディネーターまで枠を広げ、前年度から研究している合理的配慮やUDを取り入れた授業について話し合った。第4回では、各校の生徒指導主事も参加し、支援計画や指導計画を作成して引き継いでいくことを提案した。

小中が互いの授業を観たり自分が感じたことをもとに意見を出し合ったりしたことは、とても有意義だった。



(2) きらめきアクション等交流事業

御所ヶ丘中学校区部会での話し合いから、具体的な計画を立て実施してきた。小小・小中の交流を中心に、保幼小の連携や小高の連携、

「学びのプラン」の活用などの取組を行った。御所ヶ丘中学校区の児童生徒の自己実現のために、よりよい交流の在り方を探っているところである。

① 小小の交流

ア 3校合同の田植え（H26.5.14）・稲刈り（H26.9.9）

「立沢里山を守る会」の方々の協力のもと、3小学校の5年生児童が、立沢里山の水田において春に田植え・秋に稲刈りを行った。地域の方々とかかわり合うことで、児童一人一人が地域の一員としての自覚を深めることができた。

イ 北守谷地区3小学校児童作品展（H27.2.16~22）

北守谷公民館で行われた「北守谷公民館地域ふれあいまつり」の作品展に参加した。児童に展示期間等を知らせ、積極的に見学に行くようにした。3つの小学校の作品を見ることで、それぞれの学校で取り組んでいることやよさに気付くことができた。また、同じ地域の一員であるという意識付けをさせる機会となった。

② 小中の交流

ア 「学びの広場」に中学生が参加（H26.7.）

「学びの広場」のミニティチャーとして、御所ヶ丘中学校の生徒が参加した。中学生は、自分たちが学んだ教室で、下学年の児童に算数を教えることにより、自己有用感を高めることができた。小学生は先輩として気軽に質問することで、中学生をより身近に感じることができた。

イ 乗り入れ授業の実施（H26.10~12）

中学校と乗り入れ授業を実施した。御所ヶ丘小学校は 図画工作科で実施、大井沢小学校は外国語活動で実施、松前台小学校は体育科で実施した。また、御所ヶ丘中学校区として、道徳の乗り入れ授業を実施した。小・中学校の教員の交流を図る機会となり、教員の指導力の向上につながった。

ウ 母校ボランティア（H26.11.20）

母校ボランティアを御所ヶ丘中学校1年生と3小学校の1・2・6年生の交流活動として実施した。1・2年生との交流では、算数と体育の授業に中学生が学習ボランティアに入るといった形態をとった。6年生との交流では、中学生が「キャリア教育」の視点で、職場取材の発表をしたり、学校紹介を行ったりした。

エ 小中合同のあいさつ運動（H25.11.5~8）

「いばらき教育月間」に合わせて、小中合同のあいさつ運動を実施した。御所ヶ丘中学校2年生が朝の登校時間に合わせて、学区内3小学校に行き、児童と一緒に、地域の方や登校してくる児童にあいさつをした。

オ 御所ヶ丘中学校吹奏楽部の演奏（H26.11.9）

御所ヶ丘中学校の吹奏楽部が各小学校で演奏をした。御所ヶ丘中学校の吹奏楽部の企画で、一緒に声を出したり、体を動かしたりして、児童の感性を豊かにする内容であった。

③ 成果と課題

御所ヶ丘中学校区部会での話し合いを通して、中学校区同一步調で、小小の連携、小中の連携を行うことができた。6年生児童は、中学校の教員や中学生との交流により、中学校進学への不安を軽減することができた。「何を期待して、何が得られるか、何を指すのか」目標を明確にした連携を今後も継続していきたいと考える。

3 終わりに

御所ヶ丘中学校区の全教師がつながりを意識し、共同で研究を進めていくことが必要である。学年間、小中がしっかりつながることが、児童生徒のよりよい成長につながる。9年間の義務教育を通して、児童生徒に人に支えてもらう経験をたくさんさせ、人との関係性を大切にしながら感謝と思いやりの心情を育て、未来に向かって生きる力を培っていくようにしたい。